

---

[成果情報名] ビール大麦新品種「はるみやび」の播種期の違いによる生育特性  
[要約] 「はるみやび」は、これまでの播種適期としている11月25日の標準播において収量性、外観品質が最も優れ麦芽品質も良好である。  
[キーワード] はるみやび、多収、ビール大麦、播種期  
[担当部署] 農産部・麦類育種チーム  
[連絡先] 092-924-2937  
[対象作物] 麦 [専門項目] 栽培 [成果分類] 技術改良

---

[背景・ねらい]

ビール大麦新品種「はるみやび」は、オオムギ縮萎縮ウイルス系統（I～V型）全てに抵抗性を有し、多収で被害粒の発生が少なく、検査等級および麦芽品質が良好であり、契約対象品種に認定され一般栽培が行われる。しかし、「はるみやび」において播種期が異なる場合の生育特性は不明である。そこで、今後、生産現場へのスムーズな導入を図るため、播種期別の生育特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「はるみやび」は、いずれの播種期においても他2品種と比較して、穂数が多く、容積重および千粒重が同等かやや重く、整粒歩合も高いため多収である。播種期別でみると標準播で最も多収となる（表1）。
2. 「はるみやび」の出穂期は、いずれの播種期も「ほうしゅん」より1～2日早く、「しゅんれい」より3日早い。成熟期は、「ほうしゅん」より1～2日遅く、「しゅんれい」より1日早い（表1）。
3. 「はるみやび」の標準播は、「しゅんれい」並に検査等級が優れ、被害粒の発生割合も低い（表2）。
4. 「はるみやび」の標準播は、麦芽総合評点が他2品種と同程度か、優れる傾向であり、低いほど好ましいとされる麦汁β-グルカンが「ほうしゅん」と同程度である。一方、「はるみやび」のやや早播は、麦汁β-グルカンが高くなる傾向にある（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「はるみやび」の一般栽培へ向けた資料として活用する。
2. 「はるみやび」は、これまでのビール大麦と同様11月25日～12月5日に播種する。
3. やや早播は、麦汁β-グルカンが高くなる傾向があるため避ける。

[具体的データ]

表1 播種期・品種別の生育特性、収量

播種期	品種名	出穂期	成熟期	穂数	容積重	千粒重	整粒歩合	収量	同左 標準 比
		月・日	月・日	本/m <sup>2</sup>	g/L	g	%	kg/a	%
やや早播 (11月15日播)	<b>はるみやび</b>	<b>4.04</b>	<b>5.20</b>	<b>486</b>	<b>712</b>	<b>45.3</b>	<b>98</b>	<b>40.8</b>	<b>95</b>
	ほうしゅん	4.05	5.19	434	688	40.7	96	32.9	76
	しゅんれい	4.07	5.21	439	705	44.4	91	31.2	72
標準播 (11月25日播)	<b>はるみやび</b>	<b>4.07</b>	<b>5.23</b>	<b>477</b>	<b>726</b>	<b>45.5</b>	<b>98</b>	<b>43.1</b>	<b>100</b>
	ほうしゅん	4.09	5.21	445	701	39.9	96	35.5	82
	しゅんれい	4.10	5.24	474	728	43.9	96	38.2	89
遅播 (12月14日播)	<b>はるみやび</b>	<b>4.15</b>	<b>5.27</b>	<b>361</b>	<b>721</b>	<b>47.3</b>	<b>98</b>	<b>35.4</b>	<b>82</b>
	ほうしゅん	4.16	5.26	335	702	41.8	96	27.5	64
	しゅんれい	4.18	5.28	317	718	46.2	96	25.6	59

- 注) 1. 播種期()内は4カ年の平均播種日  
 2. 生育特性、収量は平成22～25年度の4カ年平均、倒伏の発生はなし  
 3. 目標出芽本数はやや早播および標準播で150本/m<sup>2</sup>、遅播で200本/m<sup>2</sup>  
 4. 整粒歩合は2.5mmのふるい上の割合、収量および千粒重は2.5mmふるい上の値で、それぞれ水分12.5%および無水での換算値

表2 播種期・品種別の外観品質および麦芽品質

播種期	品種名	検査	被害粒	麦芽	麦汁β- グルカン
		等級	発生割合 (%)	総合評点	mg/L
やや早播 (11月15日播)	<b>はるみやび</b>	<b>2等下</b>	<b>5.7</b>	<b>67</b>	<b>63</b>
	ほうしゅん	2等下	9.0	68	48
	しゅんれい	2等下	5.0	71	56
標準播 (11月25日播)	<b>はるみやび</b>	<b>2等上</b>	<b>1.8</b>	<b>77</b>	<b>52</b>
	ほうしゅん	2等下	5.1	73	50
	しゅんれい	2等上	1.6	77	38
遅播 (12月14日播)	<b>はるみやび</b>	<b>等外上</b>	<b>4.5</b>	<b>78</b>	<b>44</b>
	ほうしゅん	等外上	11.6	76	47
	しゅんれい	2等下	5.0	77	39

- 注) 1. 播種期()内は4カ年の平均播種日  
 2. 外観品質は平成22～25年度の4カ年平均、麦芽品質は栃木農試による分析で、平成22～24年度の3カ年平均値  
 3. 被害粒発生割合は側面裂皮粒、凸腹粒および剥皮粒それぞれの発生割合の合計  
 4. 総合評点は麦芽の品質を総合的に評価した点数で、高いものが良い  
 5. 麦汁β-グルカンは低いほうが良い

[その他]

研究課題名：高醸造適性・多収・耐病性品種の育成

予算区分：国庫受託（実用化技術）

研究期間：平成25年度（平成23～25年）

研究担当者：濱田美智雄、原口雄飛、高田衣子、山口 修、甲斐浩臣

発表論文等：福岡農総試研報33号、福岡農林試研報1号